



令和7年度 2学年保護者会 進路指導部より

群馬県立太田女子高等学校
進路指導部 今井 輝夫

CONTENTS

01 | 最新入試概況

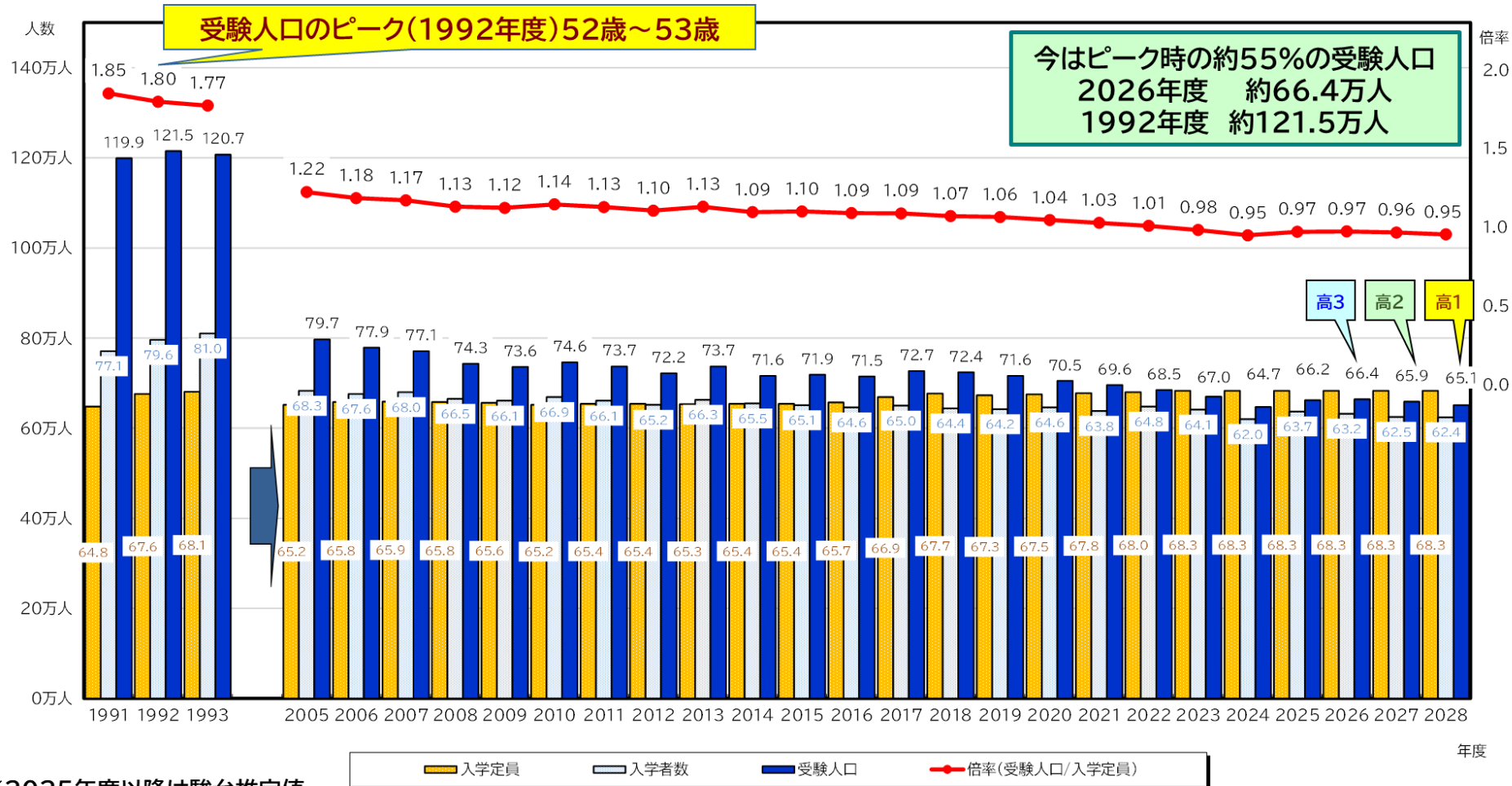
02 | 今後の進路指導について

03 | まとめ

01 最新入試概況

3

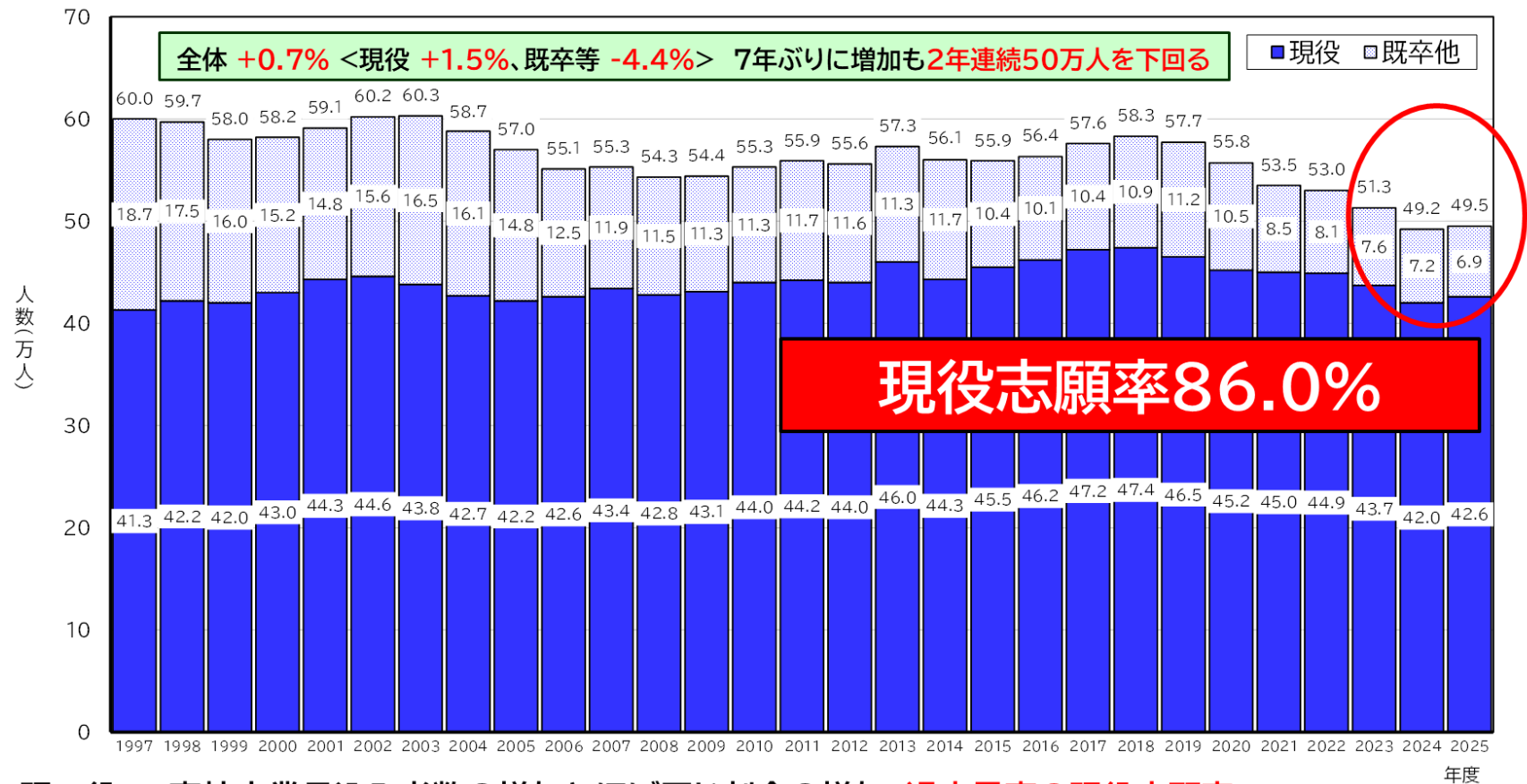
受験人口と大学入学定員推移



01 最新入試概況

4

大学入学共通テスト・大学入試センター試験 確定志願者数推移



■ 現 役・・・高校卒業見込み者数の増加とほぼ同じ割合の増加、**過去最高の現役志願率**

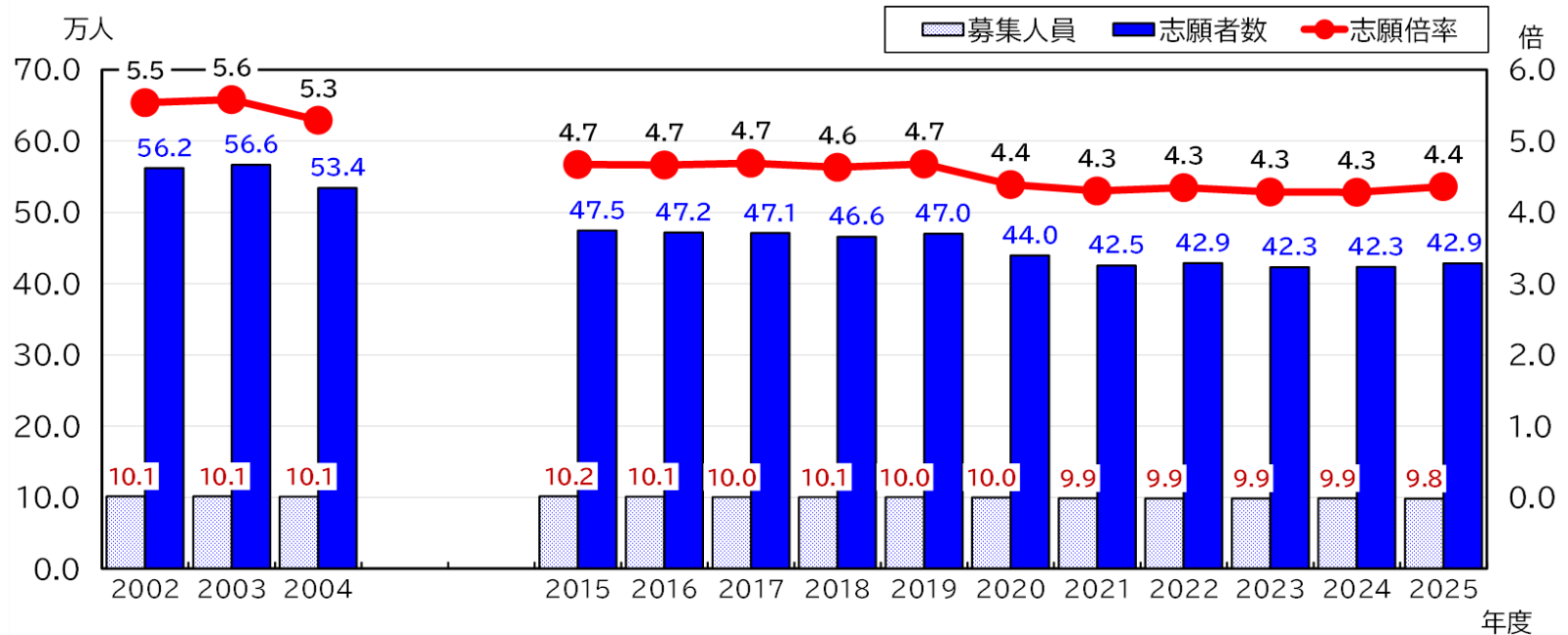
■ 既卒等・・・6年連続減少、**初めて7万人を下回る**

※大学入試センター発表の最終確定修正値

01 最新入試概況

5

国公立大学一般選抜 確定志願者数推移



■ 確定志願者数 428,501人〔前年度423,238人〕 +5,263人(前年度対比指数101) **2021年度以降42万人台で推移**

■ 志願倍率 4.36倍〔前年度4.28倍〕 **前年度並**

■ 志願者推移の背景特徴

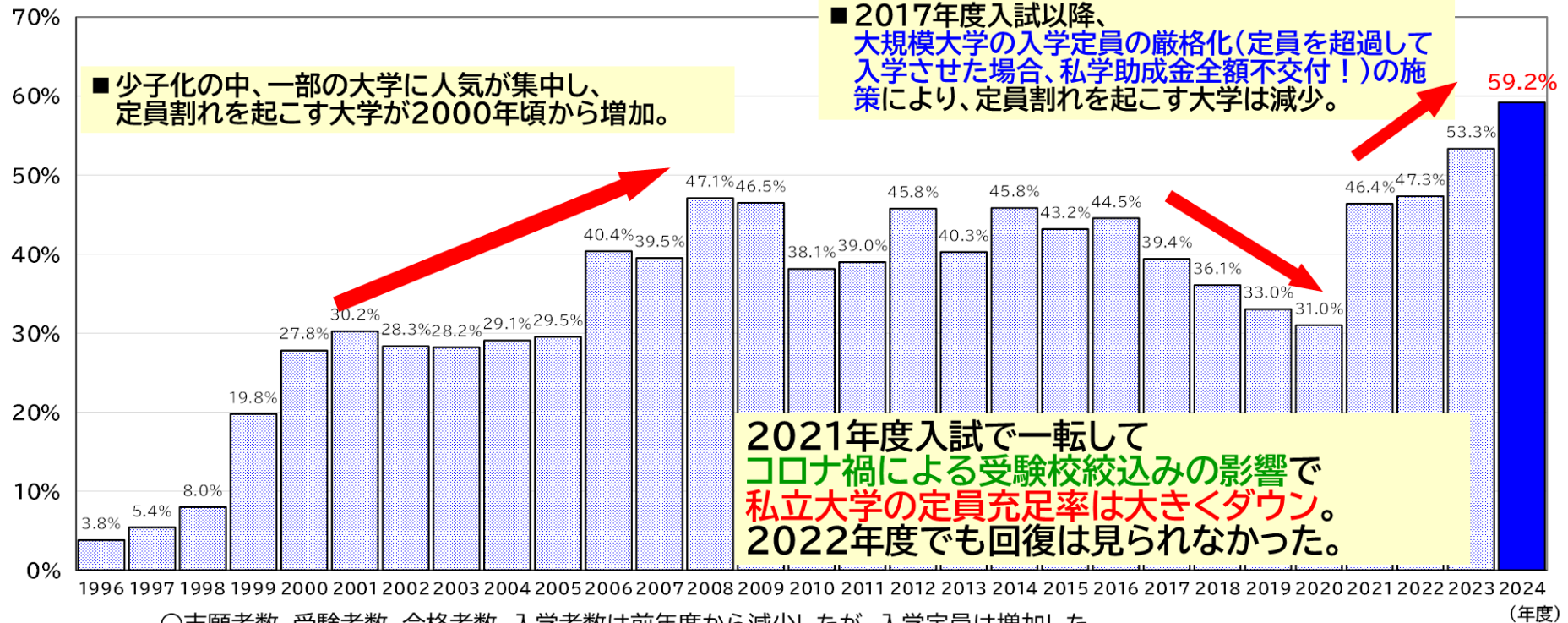
① 共通テスト志願者数の増加と平均点アップ

② 特に公立大は全日程で増加し、全体では5,217人(104)のやや増加。

共通テスト平均点アップにより、ボリュームゾーンとなる学力の受験生が手堅く出願する傾向が見られた。

共テ平均点アップ 強気出願しても良かったが…
国公立大志願者 前年度並

定員割れした私立大学の割合の推移



○志願者数、受験者数、合格者数、入学者数は前年度から減少したが、入学定員は増加した。

○入学者数は5,869人減少して、494,730人となった。

○入学定員充足率は1.40ポイント下降して、98.19%となった。(100%未満になるのは2年連続)

○入学定員充足率が100%未満の大学は34校増加して354校となり、大学全体に占める未充足校の割合は5.9ポイント上昇して、59.2%となった。(調査開始以降、過去最高)

※2024年9月13日 日本私立学校振興・共済事業団発表資料「2024年度私立大学・短期大学等入学志願動向」より

2026年度入試での主なトピックス

1. 大学入学共通テスト 課程変更2年目

前年度は新課程初年度。6教科予想平均点がアップした。

2年目の今年度、平均点ダウンか？

出願手続き電子化、初年度

2. 年内入試拡大の動き

定員割れを押さえたい大学で年内入試拡大

併願可能な基礎学力テスト型の年内入試の拡大で、受験指導の考え方も変化している

3. 女性枠拡大の動き

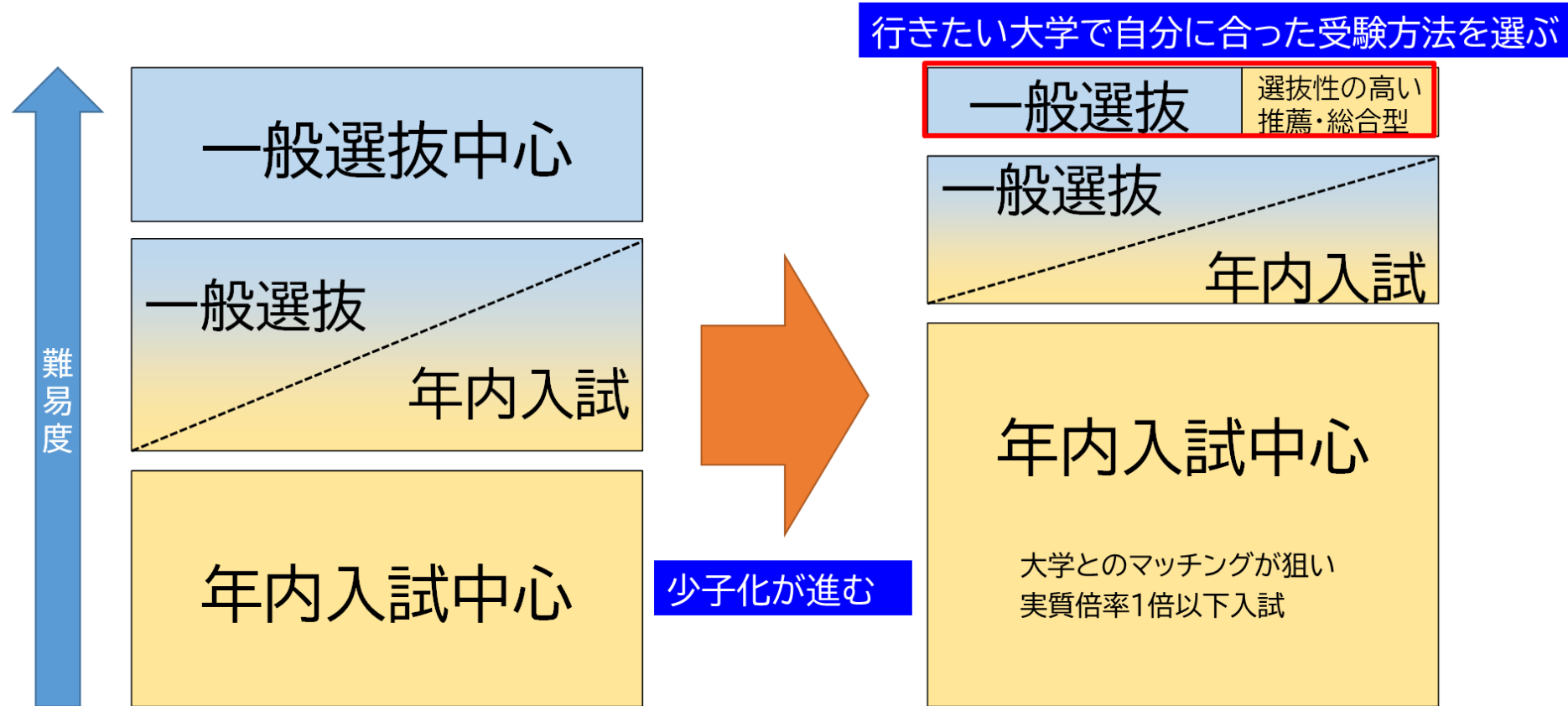
様々な価値観を持った人材を集めたい
準備の負担を考慮しながら…出願検討する

- 京都大・理、工
- 大阪大・基礎工
- 名古屋大・工(物理工)(マテリアル工)
- 広島大・理、工
- 埼玉大・工(機械工学・システムデザイン)(電気電子物理工学)(マテリアル工)

学校推薦型選抜や総合型選抜で新設

※実際の出願にあたっては必ず各大学発行の当該入試年度の募集要項等をご確認ください。

今後の大学入試の「二極化」



※受験人口の減少 (2024年度)約64万人→(2040年度)約49万人

今後の大学入試の「二極化」

確実に進む二極化

- 私立大学専願層の「共通テスト離れ」が進行している。
- 「共通テスト」対策と「私立大学マークシート方式」対策の両立の困難さ。
- 「情報」の追加により、中位層の国公立大離れが進む？



結局は・・・

- ◆ 共通テストから逃げるのではなく、チャレンジして活用する。
- ◆ 早期の「基礎学力」徹底と直前の「共通テスト」型の問題演習を行う。

行きたい大学を目指すことが、大学での深い学びへの基礎力
（「学力」「学問に向かう姿勢」）の育成につながる

私立大学 さまざまな入試方式

■ 一般方式(大学独自の試験)

●全学部入試

一般入試とは別日程で学部を横断して統一の試験を実施する方式で、併願の可否は大学により異なる

●英語検定試験利用入試

英語4技能検定試験を活用する入試で、利用できる検定試験や利用方法は大学・学部で異なる

- ①出願要件 スコアを満たすと出願でき、英語の試験は免除(満たしていないと出願できない)
- ②みなし満点 スコアを満たすと英語の得点は「満点」とみなされる
- ③得点換算 スコアに応じて大学独自の得点に換算される
- ④得点加算 スコアに応じて大学独自の得点が加算される

●試験日自由選択

●複線入試(試験教科の異なる方式)

●特定科目重視型

■ 大学入学共通テスト利用方式

- 共通テストの得点のみで合否判定

■ 大学入学共通テスト併用方式

- 共通テストを必須として一般方式(大学独自の試験)と組み合わせる方式

例)早稲田大・政治経済、国際教養、スポーツ科学、上智大・全学部、青山学院大<個別学部>等

・3年次選択科目

- 6月9日届提出済 → 11月決定 → 二者面談で最終確認
- 複数の志望校に対応していますか
- 安易に科目を減らしていませんか
科目が少ないのは決して有利ではない
- 安易に科目を増やしていませんか
科目が多いことの“負担感”を乗り越えれば、受験できる大学の選択肢が広がる。乗り越える努力をしているか？
- 調査と相談が大事です
- 最後は生徒自身で決断

・7月三者面談

- 進路や学校生活について相談をしましょう
- 短時間ですがいろいろとお話をお聞かせください
- 三者面談をきっかけとしてご家庭と学校との連携がより深まることを期待しています

・志望大学調べ

- 夏休み中に志望大学群を調べて報告書を提出する
- 入試制度、日程、教科科目、配点、所在地を知る
- 卒業後の進路も含めて考える
- 3年になってからでは遅い
3年次は勉強に専念できる状態にしておく
- 実際に大学へ行こう → 「オープンキャンパス参加」
保護者も一緒に参加しては
- 国公立大と私大を併せて調べる
- よく分からないときはレベルの高い大学をまず調べる

・志望大学群を決める

- 2年次に志望大学群が決まっている生徒の合格率は明らかに高い
- 3年次に志望大学が大きく変わった生徒の合格率はやや低い
- 実際にはまだよく分からない生徒も多い。迷うことは悪いことではないがどこかで区切りをつけて決断をしていく
- 生徒任せにせず保護者も一緒に考えてください
実は保護者の意見に左右されるケースも多いです
- 教員は受験のプロでもあるので何かあれば相談してください

・9月19日(金)の進路講演会につづく

- 学校外の講師による講演会を開催します
- 修学旅行に関する説明もあります
- 修学旅行は楽しんで行って欲しいと思いますが、修学旅行終了が受験生への切り替えのいい機会にして欲しいと考えています
- 少し先を見ながら生徒、保護者、職員が一緒になって受験に取り組んでいけたらと思っています

・受験情報を正しく知る

- 受験情報は毎年変わっていきます。古い情報や噂に惑わされず正しい情報を共有しましょう
- SNS等からの受験に関する情報には気をつけてください
正しい情報は基本的に大学のHPを参照
学校からも必要に応じて様々な情報を発信いたします
- 私大の約6割が定員割れをしているのは、「行きたくない大学」を認識するようになってきた
- 同じ情報でも生徒によってその活用は異なります

・受験は既に始まっている

● 英検は受験に直結

英語4技能検定試験を活用する入試(大学・学部で異なる)

- ①出願要件 満たしていないと出願できない
- ②みなし満点 スコアを満たすと英語の得点は「満点」とみなされる
- ③得点換算 スコアに応じて大学独自の得点に換算される
- ④得点加算 スコアに応じて大学独自の得点が加算される

● 総合型選抜や学校推薦型選抜には要件がある

1、2年次の探究学習の成果や成績、欠席日数等の出願要件がある

例) 学校推薦型選抜

学習成績の状況(評定平均値)4.3以上 欠席30日以内 など

・難関大をめざしましょう

- 難関大のよさは、①授業が違う、②施設が違う、③仲間が違う、④卒業後の進路が違っているとされています。特に一緒に泣いたり、笑ったり、学んだりする仲間は人生の宝であると思います。太女でもいい仲間ができたと思うので、大学でもよりよい仲間との出会いをして欲しいと願っています
- 高い志望をもって努力していくことは大切なこと
- 保護者が背中を押してくれると生徒が頑張れるケースが多かったと思います

・受験は成長のチャンス

- 受験に正解はありません。生徒によってそれぞれ対策も方策も違っています。だからこそ保護者、生徒、職員が団結して取り組んでいかなければいけない
- 受験は大変かもしれませんが、乗り越えることで得られる事もたくさんあると思っています。生徒が成長する大きなチャンスです。しっかり見守っていきましょう

ご静聴ありがとうございました

